

知っていますか？

歯周病と全身のかかわり

歯科衛生士 原 るみ

30代以上の約7割が歯周病にかかっている、ってご存じでしょうか？

歯周病は初期の痛みなど自覚症状がないまま進むので、別名サイレント・ディーズ(沈黙の病気)と呼ばれます。症状が進行すると歯を支える骨(歯槽骨)を溶かし、やがて歯が抜けてしまう原因になります。

歯科検診などで「むし歯はなし、でも歯肉炎あり」と言われたことはありませんか？むし歯がなかったから安心！と思っていないですか？

歯を失う原因は、歯周病37.1%、むし歯29.2%と歯周病で歯を失うことのほうが多くなっています。歯肉炎は歯周病の始まりです。

歯周病の進行とともに、歯肉が腫れる、些細な刺激で出血する、歯が浮いた感じがする、嫌な口臭がする、口の中のねばつきが気になるなどの症状がでてくるようになります。

歯周病を進行させる要因をグラフにしてみました。

歯周病菌や歯石、歯ぎしりなどお口の中の原因だけではなく、タバコや肥満、糖尿病、ストレスなど生活習慣病なども大きくかかわっています。口腔内の衛生状況を改善するだけでなく、生活習慣の見直しなどもとても重要です。

また、歯周病は多くの全身の病気にかかわっています。

○糖尿病 ○循環器病 ○肺炎 ○肥満
○骨粗鬆症 ○腎臓病 ○肝疾患 ○早産
○リウマチなどがあげられています。

また、歯周病はアルツハイマー型認知症の発症要因になることが研究でわかっています。

歯を失うことで食べられない、食べにくい食材があると栄養のバランスをくずし、体への影響がでやすくなります。何でも食べられるお口をつくるのが健康で長生きのコツとなります。なので「自覚症状がない」歯周病を見逃さないようお口の管理に気をつけましょう。

歯科検診についてのお問い合わせは、和良歯科診療所(TEL:77-4008)までお願いいたします。

歯周病の要因

